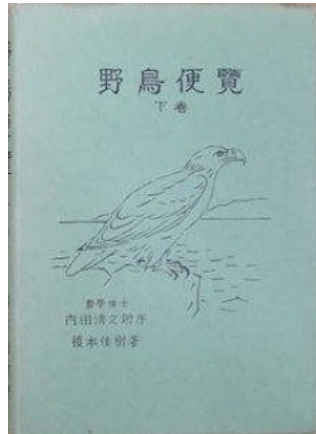
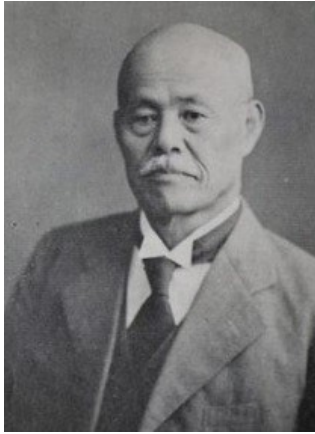


榎本佳樹（よしき）



- ・1873 (M6) 年～1945 (S20) 年
- ・1916 (T5) 年、日本鳥学会入会
- ・1917 (T6) 年～1933 (S8) 年まで高野山中学に奉職し、高野山周辺の鳥類調査を実施
- ・退職後、高野山から大阪に転居
- ・指導者として大阪支部を牽引
- ・『野鳥便覧』（上巻 1938 年、下巻 1941 年）発行
「鳥学会の至宝榎本翁が五十年の収穫、明細正確な原色図はすべて翁の自筆」（『野鳥』誌の広告）

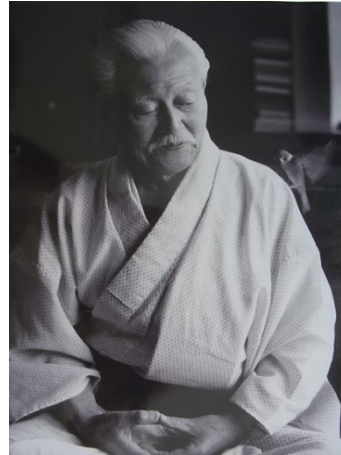
●榎本佳樹の言葉

「一億人の日本人中、鳥類保護の必要なことに気づいている人は、多くとも千人位で、保護に努めなければならぬという考えを持っている人は多分百人にも達しないであろう」。

「鳥類は国有の宝物である。今の時代に生きている人間だけが楽しんで、その後は絶滅しても差支えないというものではない。われわれが楽しんだと同様にわれわれの子々孫々まで楽しませたく、その保護と増殖に力を尽くすことは義務である」。

- ・1936 (S9) 年、日本野鳥の会関西支部（後に京都支部と阪神支部に分離）創立に伴い初代支部長に就任
- ・『鳥の歌の科学』（1947 年）発行
- ・1957 年、京都市立芸術大学の学長に就任
- ・1963 年、京都市名誉市民に選出

比叡山での榎本・川村・中西



中西悟堂（1895～1984）の記述

「比叡山に初めて私が行ったのは、京都支部が比叡山の探鳥会を黒谷で催した昭和 14 年 5 月で、川村さんと大阪の野外鳥類学者榎本佳樹老と私の三人が指導者であった」。

1939 年 5 月 27～28 日 京都支部探鳥会

- ・午後 4 時出町柳集合のところ悟堂は武庫川で小林桂介とアジ

サシ観察に夢中になり遅刻。8 時頃八瀬からケーブルに乗り、夜道を歩いて 11 時頃青龍寺に合流。



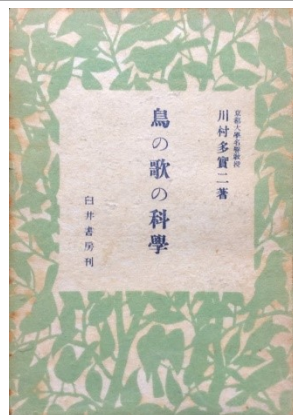
右：榎本、左：川村、撮影：中西（釈迦堂前）

- ・翌朝 4 時、1 班川村、2 班榎本と中西が案内。
- ・出現鳥は 28 種。「富士に次ぐ日本第二の繁殖地とはどういえない。（軽井沢など）一朝にこれ以上の鳥種をきけるところはざらにある」
- ・川村「ケーブル比叡を降りたところで榎本佳樹がイヌワシを発見した」

1940 年 6 月 15～16 日 大毎主催の探鳥会

- ・15 日夜、猪川城（NHK 京都放送局長）の講演。
- ・参加者 200 名を 5 班に分け午前 3 時半開始。1 班中西、2 班榎本が案内し、計 40 種を確認。
「サンコウチョウの声、アカショウビンの声すこぶるよし」「やはり比叡山は鳥が多いと思い直した。（200 名の参加にもかかわらず）これだけの鳥の声がきけたのは、予想以上のことだった」。

川村多実二（たみじ）



- ・1883 (M16) 年 5 月 4 日～1964 (S39) 年
- ・1912 (T 元) 年京都大学教授に就任（鳥類学ではなく、淡水生物や動物生態学が専門）